

## 地域を語る知事との円卓対話、図書館で！

5月22日に文化情報プラザで、三重県知事と亀山市長がオープンな場で地域の課題等について議論する「知事と市町長の円卓対話」が行われました。続けて、多目的室では「知事と県民との円卓対話」として、亀山市立図書館ボランティア団体の亀山絵本と童話の会の皆さんとの対話が行われました。



三重県知事と亀山市長の円卓対話

- 1 子ども・子育て施策の充実・強化について
- 2 太陽光発電施設の適切な設置・管理について
- 3 地域コミュニティの維持及び活性化に向けた支援について

知事が亀山市立図書館を視察され、2階のイラストカーテンなどをご覧になった際、「考えられた良い図書館」とのお言葉をいただきました。その後、知事と市町長および県民との円卓対話が行われました。この対話は「学びの場からつながる場へ」というテーマのもと、地域の情報発信の場として重要な役割を果たす図書館で開催されたことに大きな意義があります。

知事と県民との円卓対話は多目的室で行われ、人形や小道具の展示が並ぶ中、ヤマトタケルの大型絵本の実演も行われました。対話の中で知事は「いのこ」の歌について、「自分が小さいころ耳にしたものと歌詞が違う」という話題を取り上げました。

「いのこ」とは、『亀山市史 民俗編』や『亀山地方の年中行事』によれば、子どもたちが歌いながら各戸を巡り、藁製の棒や石で地面を叩いて回る豊作の祝いの行事です。漢字では「亥の子」と書き、市内の野登や神辺地区などで行われており、地区ごとに歌詞が少しずつ異なります。この行事をもとにした創作童話『ろくべいさんのいのこ』は、人形劇にも再構成されました。この童話は亀山絵本と童話の会によって書かれ、創作童話集『くりの木』第18号に掲載されています。

このような地域の文化や歴史を蓄積し、発信していくことは図書館の重要な役割の一つです。今回の視察と円卓対話は、図書館が地域の情報発信と学びの場として機能していることを再確認する良い機会となりました。



知事と県民の円卓対話



ヤマトタケルの大型絵本実演

# 図書館ボランティア団体 亀山絵本と童話の会

昭和57(1982)年から40年、手作り絵本の制作・講習、童話の創作、テレホン童話サービス、人形劇、絵本の読み聞かせなどを通じて、児童文学を楽しみ、広める活動を続けています。

地域に根ざした活動を続け、地域文化の振興に貢献してきた功績により、文部科学大臣から「平成28年度地域文化功労者表彰」を受けています。今回の知事との円卓対話で多目的室内に並んでいた人形や小道具は、これまでの40年の活動の歴史が詰まったものです。



テレホン童話

創作童話

人形劇

テレホン童話サービスは、電話をかけると3分程度の短い創作童話が聞けるサービスでした。令和2年3月31日をもって終了しましたが、これまでの作品は創作童話集『くりの木』などに掲載されています。創作童話集『くりの木』は35号まで発行されており、図書館3階の地域資料の棚にあります。ぜひご覧ください。



「劇団かめレオンの人形劇」は毎年5月と12月に開催しています。



## 亀山絵本と童話の会の皆さんに聞きました

私たちの活動は、おじいちゃんやおばあちゃんにも、子どもたちにも、みんなに喜んでもらえるので自分たちも楽しいです。

また、全員の熱意がすごくて、童話のことや人形のことなど、教えてもらえることがたくさんありますし、自分の作品が形に残ります。それが嬉しくて活動を続けています。

人形劇や手作り絵本教室を、知の拠点であり、

情報が集まる図書館で開催できるのは、とても意義があることです。お話に興味を持ってくれる人が集まる場所が図書館なので、童話や人形劇を通じて亀山のことをもっと知ってもらえたらと思っています。

今後も、協力して活動を続けていきますが、後継者を探さねばという気持ちもあります。



「いのこ」について語る様子

## 8月24日(土) 第39回 夏休み手作り絵本教室 四角いのびる絵本をつくろう

亀山絵本と童話の会の皆さんに、講師としてご協力いただいています。

物語やデザイン、構図などを考えて、自分だけの絵本を親子で一緒に作れます。今回は蛇腹型の伸びるしかけの作り方を学びます。

場所 亀山市立図書館 多目的室

定員 20人(先着順)

募集期間 7月5日(金)~7月31日(水)

